

(評価資料1)

研究課題	1 食品中の放射性物質測定に関する研究(26-28)
研究目的・背景	ゲルマニウム半導体検出装置とシンチレーション式放射能測定器で得られる放射能測定結果を比較し、二つの測定方法とその値との関係について検証を行う。
研究結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ゲルマニウム半導体検出器で河川土壌の放射線量を測定した結果をみると、上流に向かうにしたがってT-Cs値が高くなる傾向が見られ、Cs134と137は直線関係にあり対応していることが良くわかった。</li> <li>○ K40とCsの値が測定場所において似た傾向をとっていることから、植物体が多く存在する場所ではCsの量が多いことがわかった。</li> <li>○ 同じ試料をシンチレーション式放射能測定器で計測した時の検出データをみると、いずれもシンチレーション式放射能測定器で測定した値の方が高くなる傾向が見られた。</li> <li>○ 土壌中の放射性セシウムの計測を同一河川の河口から上流に向かって行った結果、シンチレーション式放射能測定器でも十分にモニタリングできることがわかった。</li> </ul>
評価結果	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 総合評価 A(1人)・B(5人)・C(0人)・D(0人)・E(0人)</li> <li>○ 総合意見 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一定の研究成果は出ているが、成果の活用について進める必要がある。</li> <li>・ 現在進行中の放射線測定に係る有用なデータと思われるが、利用者への情報提供や、結果の活用法がやや曖昧である。</li> <li>・ 当初の目標は達成しており、さらなる研究の発展が望まれる。評価結果の不安定さについては、一般住民にも分かるよう丁寧な説明が求められる。</li> <li>・ 機器の違いによる測定誤差があることは重要な事実であり、それを正しく市町村に伝える必要がある。</li> <li>・ 横のつながりをもって、情報共有をはかるべきであるが、概ね本研究の成果は達成され、総合評価はA評価と考える。</li> <li>・ ゲルマニウム半導体検出装置とシンチレーションカウンター装置における測定容器、条件の比較という目的は概ね達成されたと思われる。</li> </ul> </li> </ul>
センターの対応方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>I 研究成果は目標を十分達成した</li> <li><b>II 研究成果は目標をほぼ達成した</b></li> <li>III 研究成果は目標をかなり下回った</li> <li>IV 研究成果は目標を大幅に下回った</li> <li>V 研究成果がなかった</li> </ul> <p>ゲルマニウム半導体検出器とシンチレーション式放射能測定器の測定値の比較を行い、シンチレーション式放射能測定器についても食品中の放射能分析に活用できること及び環境中の放射能にも応用できることを確認できた。</p> <p>今後、市町村や関係機関との間で情報共有を図っていきたい。</p>